

第4回全国清水寺ネットワーク会議

IN 花巻

全国の清水寺がネットワークを結び、信仰を広め交流を図るために平成4年に発足した「全国清水寺（きよみずでら・せいすいじ）ネットワーク会議」（会長 森 清範京都北法相宗大本山清水寺貫主）では、毎年全国の清水寺を会場に会議を開き交流を行っている。

第4回目の今年は、9月4、5日の両日、全国18ヶ寺から約90人が集い、岩手県花巻市で「ネットワーク会議」が開催された。今年は花巻市出身の作家宮沢賢治の生誕百年に当たることから、自然を愛した賢治の精神を生かして、今回の会議の「アピール」が打ち出された。今回の会議の会所は、天台宗清水寺（清水龍孝住職、花巻市太田清水町）が担当した。

4日は花巻温泉の佳松園を会場に、午後3時半から会議が開かれた。花巻・清水寺の清水住職による開会挨拶に続き、森会長が挨拶に立った。続いて参加者紹介と近況報告があり、三陸はるか沖地震と兵庫県南部地震について報告があった。

続いて宮沢賢治の研究者である吉見正信氏を講師に迎え、

基調講演「宮沢賢治の世界ーそのふるさととイーハトーブ」を聞いた。

ふるさとを愛した賢治は岩手を「イーハトーブ」と呼び、作品にはその豊かな自然が描き出されている。吉見氏は、賢治がふるさとに寄せた思いや、「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」という世界観について熱心に語った。

続いて議事に移り、今後の会議のあり方などが討論された。また、宮沢賢治の精神を生かした同会議のアピール（別掲）が打ち出された。

同会議代表幹事の清水谷善英天台宗播州清水寺住職が、当番の花巻・清水寺への謝辞を述べ会議を閉会した。

翌5日は、花巻温泉近くの詩人・高村光太郎が戦時中疎開して晩年を過ごした「高村山荘」とその記念館を見学、法要の会場である花巻・清水寺を見学し、花巻を後にした。

[アピール]

清水（きれいなみず）は、豊かな自然環境が生んだ大切な自然の贈り物であります。

清水とのいわれが深く寺名としている全国83ヶ所の清水寺は、平成4年に第一回全国清水寺ネットワーク会議を開催して以来、清水に深く感謝し、自然環境を守るキャンペーンを展開するとともに、「人類の平和と自然・社会環境の浄化」を祈願して参りました。

花巻が生んだ偉人・宮沢賢治は「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はありえない」と述べていますが、この至言は賢治生誕百年の今日においても人類共通の課題であり、私ども宗教活動に携わる者にとって宗派を越えた道標でもあります。

ここに第4回全国清水寺ネットワーク会議が花巻市で開催されるに当たり、世界ぜんたいの幸福をめざし人類の平和と自然環境の保護浄化のため、決意を新たにし活動を展開することを表明するものであります。

第5回会議は福岡県瀬高の清水寺に決定

